



平成17年2月期第3四半期業績の概況(連結)

平成16年12月29日

上場会社名 株式会社ダイセキ
(URL <http://www.daiseki.co.jp/>)

(コード番号9793 東証・名証第1部)

問合せ先 代表者役職・氏名 代表取締役社長 伊藤 博之
責任者役職・氏名 代表取締役副社長 柱 秀貴

(TEL : (052) 611 - 6322)

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

第3四半期の業績に関しましては、監査法人による監査を受けておりません。

なお、第3四半期業績(連結)につきましては、今回が初めての算出・公表となるため前年同期との業績比較はしておりません。

2. 平成17年2月期第3四半期業績の概況(平成16年3月1日～平成16年11月30日)

経営成績(連結)の進捗状況

(注)金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	売上高	営業利益	経常利益	当期(四半期) 純利益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %
平成17年2月期第3四半期	14,285 (-)	2,493 (-)	2,489 (-)	1,449 (-)
平成16年2月期第3四半期	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
(参考)平成16年2月期	16,949	2,683	2,695	1,437

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
平成17年2月期第3四半期	65 13	-
平成16年2月期第3四半期	-	-
(参考)平成16年2月期	62 51	-

(注) 四半期業績(連結)の開示は、当期より実施しておりますので、前年同四半期の実績の記載並びに比較は行っておりません。

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

当第3四半期におけるわが国経済は、順調に回復傾向を示してきた景気が、原油価額高騰等の影響により一部に足踏み状況がみられました。しかしながら、素材産業をはじめとして企業業績には力強さが残り、また民間設備投資も活発さがみられるなど、引き続き堅調な景気動向となっております。

当社グループにおきましても、堅調なわが国の鉱工業生産を受け、主要業務である産業廃棄物中間処理の受注が好調に推移するとともに、子会社の株式会社ダイセキ環境ソリューションの手がける土壌汚染の調査・分析・処理事業も大幅に拡大するなど、業績は堅調に推移いたしました。また、設備投資においても10月には当社の九州事業所において新たな水処理工場（総投資額約7億円）が完成、また株式会社ダイセキ環境ソリューションにおいて本年6月に完成した名古屋リサイクルセンターに続き2番目の拠点となる横浜リサイクルセンター（総投資額約8億円（土地を含む））が完成・稼動を開始いたしました。

こうした施策により、当第3四半期の業績につきましては、売上・利益とも、本年度中間決算発表時に上方修正を行った計画に対し、ほぼ計画通り推移いたしました。

3. 平成17年2月期の業績予想（平成16年3月1日～平成17年2月28日）

第4四半期の業績予想に関しましては、外部環境においても特に大きく業績予想と乖離する状況にはなく、堅調に推移するものと思われまます。したがって、平成16年10月22日に発表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

平成17年2月期の業績予想(連結)（平成16年3月1日～平成17年2月28日）

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
通 期	19,046	3,249	1,858

(参考) 1株当り予想当期純利益(通期) 81円45銭